

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
29 - 30	高等学校	芸術科	美術Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美Ⅲ 303	美術 3		

I. 編修の基本方針

社会で生かされる美術の力。

教科書全体において、美術の創造的な諸活動を通して、生徒の美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てられるように心がけました。また、「美術Ⅰ」及び「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、生徒の感性と美意識を磨き、独創的で個性的な表現と鑑賞の能力を高めることを目指し、編集の基盤としました。

1 社会や文化への視野を広げる

- 「美術Ⅰ」及び「美術Ⅱ」の学習を基礎にして、美術についてさらに深く知り、愛好する心情をより深いものにしていくことができる教科書を目指しました。卒業をひかえた生徒が、自己の内面を深く見つめ個性を生かして追究できる表現の題材や、現代社会の抱える問題をテーマにした作品やオリンピックに関わるデザインを鑑賞する題材、中尊寺金色堂を取り上げて文化財の保存や継承の大切さを気づかせるページなどを設け、社会や文化へ視野を広げ、美術を愛好する心情を育むことを意図しました。また、巻末の資料では美術の学習を生かすことのできる職業を6ページにわたって紹介し、美術と職業および実生活とのつながりに関して、理解が深まるよう意識して編修しました。

2 発想の手がかりや技法のヒントが充実

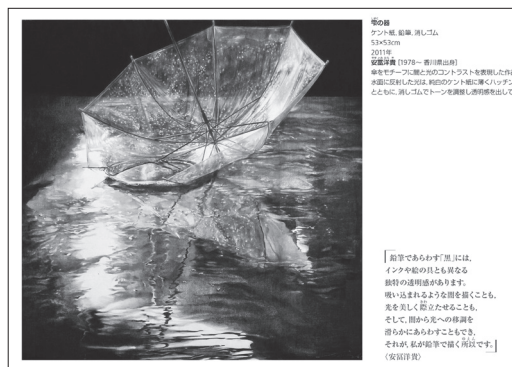
- 教科書を授業の中でより有効に活用できるように、題材の中で、作品をつくるときの発想の手がかりや技法のヒントを示しました。また、巻末資料で自身の作品集の制作について取り上げるなど、全体を通して制作の参考になる内容を随所に掲載しました。

3 生徒の感性に響く作品群

- 高校生の感性を刺激する現代的な作品やテーマを取り上げたり、絵画に関しての生徒への問いかけをQマークで示したりするなど、楽しみながら学習を進められるような工夫を随所に設け、美術をより好きになれる教科書を目指しました。

Ⅱ. 対照表

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.2~3		目次	○インドの村で地域の人とともに共同制作した作品を掲載したり、オリンピックにおける各国のデザインの展開や、現代社会の抱える問題をテーマにした映像メディア表現の作品を掲載したりするなど、自国だけでなく世界の動向にも目を向ける態度の涵養へとつながるよう工夫した。——【第五号】	・P.2~3 ・P.30~31 ・P.36~37
P.4~5	はじめに	社会に開かれる美術		
P.6~7		私のいる世界	○日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国を始め、さまざまな地域の作例を取り上げることに、自国だけでなく他国の文化も尊重する態度が養われるようにした。——【第五号】	・P.5 ・P.9 ・P.34
P.8~9		鉛筆の可能性	○生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うため、自己の内面を深く見極めて表現する題材や、自然と調和した住環境とは何か、生徒自身が考え提案する題材を取り上げた。——【第一号】	・P.6~7 ・P.26~27
P.10~11		[作品鑑賞室] 生命のサイクル	○多様な方法でつくられた作家や生徒の作例を示し、さまざまな表現に触れることで、個人の価値を尊重する態度を養えるように工夫した。また適宜「作者の言葉」を添え、作者の考え方に共感し、尊重しながら、自らの創造性を培えるように意図した。——【第二号】	・全体 ・P.5 ・P.9 ・P.12 ・P.16 ・P.27 ・P.28 ・P.33 ・P.34~35
P.12~13	絵画・彫刻	[作家の生涯と作品] 岡本太郎		
P.14~15		響き合うイメージ		
P.16~17		自然の力を生かして		
P.18~19		[作品鑑賞室] 迫り来る龍神		
P.20~21		[見る・知る・学ぶ] 絵画の修復		
P.22~23		書物のデザイン		
P.24~25		安心をつくるデザイン		
P.26~27	デザイン	自然との共生	○伝統と文化を尊重する態度を養うため、墨の使い方に注目して襖絵を鑑賞する題材を設けたり、文化遺産を鑑賞し、次世代に伝えることの意義を学ぶ題材を設けた。また、日本の伝統的な美を生かしたモダンデザインの作品を掲載するなど、我が国で大切にされ、今も息づく伝統や文化を積極的に取り上げた。——【第五号】	・P.18~19 ・P.28~29 ・P.46~47
P.28~29		[作家の生涯と作品] 田中一光		
P.30~31		[見る・知る・学ぶ] オリンピックのデザイン	○災害時でも使いやすいデザインの工夫を紹介したり、災害に対する備えについてデザインの観点から考える活動を設定したりすることで、生命を尊ぶ態度を養えるよう工夫した。——【第四号】	・P.24~25



P.9 「鉛筆の可能性」より

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.32～33	映像メディア表現	光を捉える	○生活の中に豊かさや安全性をもたらすことを目指すデザインなどを紹介したり、現代社会の抱える問題をテーマとした映像メディア表現の作品を取り上げたりして、自らが生きる社会の中で、主体的に文化の継承や発展を目指す態度を養えるよう工夫した。 ——【第三号】	・P.22～23 ・P.24～25 ・P.30～31 ・P.36～37
P.34～35		編集で広がる映像の世界		
P.36～37		[見る・知る・学ぶ] 時代の精神を感じて		
P.38～39	資料	ポートフォリオをつくる	○巻末に生徒自らが必要なときに参考にできる資料を設け、自主・自律の精神をもって学習を進められるように配慮した。 ——【第二号】	・P.38～39 ・P.40～45
P.40～41		[美術を学んで広がる未来] ファインアートに関わる仕事	○巻末の資料では、美術の学習が生かされる職業について紹介し、美術と職業や生活との関連を感じ取ることができるよう配慮した。また、美術に関わるさまざまな仕事に携わる人のインタビューを掲載して、生徒の職業への意識や勤労を重んずる態度が養われるように配慮した。 ——【第二号】	・P.40～45
P.42～43		[美術を学んで広がる未来] デザインに関わる仕事		
P.44～45		[美術を学んで広がる未来] 映像メディアに関わる仕事	○平和を希求する心が育つよう、また、国際社会の発展を願う心が育つよう、美術や文化遺産を通して、平和や国際協力について考えさせるきっかけになるような作品を取り上げた。 ——【第五号】	・P.2～3 ・P.46～47
P.46～47		あとがき		

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
29 - 30	高等学校	芸術科	美術Ⅲ	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美Ⅲ 303	美術 3		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習指導要領と教科書の関連

- 教科書全体において、美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高められるよう心がけました。

2 教科書の構成

〈全体の構成〉.....

- 学習指導要領の構成に合わせ、教科書全体をA表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」とB鑑賞、巻末の「資料」とに分けて整理しています。また、それぞれが一目でわかるようにインデックスで色分けをし、実用的な教科書としての機能性を高めました。巻末の資料では、自分のこれまでの制作を振り返って作品集をつくる活動や、生徒が進路を考える際の参考になるように美術に関わる職業を紹介するページを設けました。

3 各領域の内容と特色

〈「A 表現」について〉.....

- 「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」それぞれの分野の題材において、多様な表現活動を促せるように、作品の選定や取り上げる活動のバランスと量に配慮しました。
- 題材の中では「主題の生成」と「創造的な表現」が関連づくよう、目標の設定や「制作ノート」の活動、生徒作品などを示し、相互の資質や能力がいつそう高まるように配慮しました。

〈「B 鑑賞」について〉.....

- つくり手の心情や意図を理解するための「作者の言葉」を随所で紹介しています。また、図版には適宜解説文を添え、より鑑賞が深まるように工夫しました。
- 「作家の生涯と作品」という題材では、作品の鑑賞に加え、作家の人生や時代背景を俯瞰しながら、鑑賞活動がより深められるように工夫しました。
- 「見る・知る・学ぶ」という題材を設け、文化財の修復の必要性や、オリンピックに関わるデザインの展開、社会に目を向けた映像メディア表現の作品の紹介など、日本及び諸外国の美術文化についての理解をより深められるように構成しています。
- 「作品鑑賞室」という題材では、一つの作品を見開き2ページで扱いました。また、生徒への問いかけを記し、作品について深く考えたり、分析して批評し合ったり、細部まで鑑賞したりする活動を提案しました。

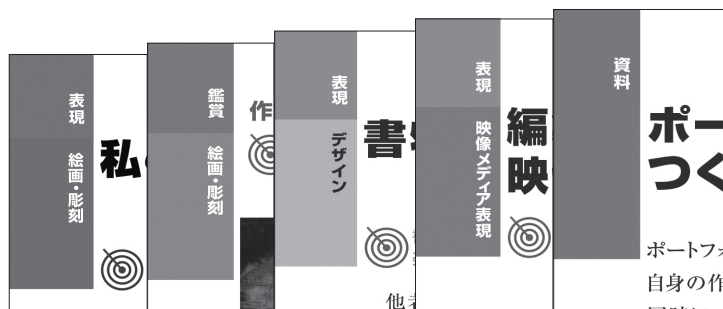
4 学習効果を高めるための、構造上の工夫点

〈目次〉

- 目次は「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」などが色帯で即座に認識でき、また、題材の活動内容を形で識別できるように、目次の●印で表現、◆印で鑑賞をあらわしています。

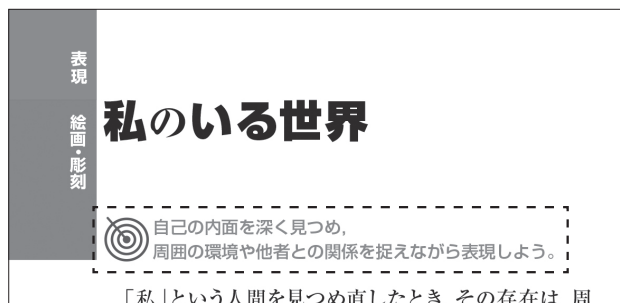
〈インデックス〉

- インデックスは目次と連動しており、「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の学習指導要領の項目、資料などが一目でわかるデザインとなっています。
- インデックスは、色覚特性の観点から校閲を行い、色や文字を工夫しました。



〈目標〉

- 各題材には題材名の近くに「目標」を明示し、身につけたい力や学習のねらいを明確にしました。



〈制作ノート〉

- 表現題材には、作品を発想し、制作する際の参考になる「制作ノート」を設けました。「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の題材に関連して、発想・構想・技法に関わる情報を紹介しています。



5 巻頭・巻末等の内容と特色

〈巻頭・巻末について〉

- 巻頭では、土を描画材にして、その地域の人たちと共同制作した浅井裕介の壁画作品を掲載し、人と人、人と社会のつながりをつくり出す美術の力を生徒が感じ取れるようにしました。巻末では、中尊寺金色堂を取り上げることで、美に対する人類普遍のあこがれや、平和や幸福への願いを感じ取り、文化遺産を保存し継承することの大切さを実感できるようにしました。いずれも作品に対する驚きや感動を呼び起こすよう、スケール感を大切にして、見開き2ページで写真を大きく掲載しました。

〈「社会に開かれる美術」〉

- 学年初めのオリエンテーションの授業での使用を考え、日本各地で開催されている芸術祭を取り上げて、美術と社会の関係を考える「社会に開かれる美術」を設けました。開催地での共同制作や、ボランティア活動を通して生まれる交流など、美術の新しい可能性を感じ取らせ、美術の学びに対する生徒の主体性を喚起するとともに、国や民族の違いを越えた共通言語としての美術の役割を実感させることを意図しました。

6 学習を支える資料の充実

〈「ポートフォリオをつくる」〉

- 「ポートフォリオをつくる」では、「美術Ⅰ」及び「美術Ⅱ」の学習を基礎とする「美術Ⅲ」の性格を鑑み、これまでの自身の制作を振り返り、作品集を作成する活動を資料として取り上げました。

〈「美術を学んで広がる未来」〉

- 「美術を学んで広がる未来」では、生徒の職業への意識を高めるため、美術の学習を生かすことのできるさまざまな職業について6ページにわたって紹介しています。また、実際にそうした仕事に携わる9人のインタビューを掲載することで、美術に関わる仕事のやりがいや楽しさを生徒が実感できるようにしました。

7 今日的な教育課題への対応

〈特別支援教育への配慮〉

- 教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から専門家による校閲を受け、全ての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

〈伝統文化の尊重〉

- 日本美術の作品を多く掲載し、伝統文化を育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるよう配慮しました。

〈ICT環境の活用〉

- 作品制作の中でコンピュータを使用する活動など、ICT機器を積極的に活用する例を取り上げています。

〈キャリア教育の視点〉

- 生活の中の美術の働きに生徒が関心をもつように、生活や社会との関わりの中で存在する美術を随所に取り上げ、生涯にわたり美術を愛好する心情が育つように配慮しました。また、巻末の資料では、生徒が進路を考える際の参考になるよう、6ページにわたって美術に関わるさまざまな職業を紹介しています。

〈人権上の配慮〉

- 教科書全体を通して、取り上げる作家について性別に偏りがないようにしました。

〈安全・防災教育への配慮〉

- 社会に働きかける美術の試みや災害と関わるデザインなど、安全や防災に役割を果たす美術を取り上げました。

8 その他の内容と特色

〈レイアウト〉

- A4ワイド判の紙面を最大限に生かしたレイアウトを行いました。2ページ大や1ページ大の作品掲載などを取り入れ、めりはりのある紙面構成にしました。

〈文字〉

- 読みやすさに配慮して、本文や解説文などの文字を、適切な大きさにしました。
- 教科書上での表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振り、学習がより円滑に進むように配慮しました。

〈製版・印刷・製本〉

- 質のよい原版の使用に努め、印刷にあたっては、製版と印刷の緻密な色調整にこだわり、美術作品や写真などの原画の色彩をできる限り忠実に再現するとともに、原画のもつ質感を再現するようにしました。
- 本文用紙には印刷効果のよいコート紙を採用し、印刷での色彩再現性・鮮明度を向上させています。
- A4ワイド判の紙面を活用できるように、ページを開きやすいあじろ綴じを採用しています。

〈環境への配慮〉

- 環境に配慮した紙と、植物油インキを使用しています。

Ⅱ. 対照表

ページ		題材名等	学習指導要領の内容	
			A 表現	B 鑑賞
P.2～3		目次		アイ
P.4～5	はじめに	社会に開かれる美術		アイ
P.6～7	絵画・彫刻	私のいる世界	(1)アイ	アイ
P.8～9		鉛筆の可能性	(1)アイ	アイ
P.10～11		[作品鑑賞室] 生命のサイクル		アイ
P.12～13		[作家の生涯と作品] 岡本太郎		アウ
P.14～15		響き合うイメージ	(1)アイ	アイウ
P.16～17		自然の力を生かして	(1)アイ	アイ
P.18～19		[作品鑑賞室] 迫り来る龍神		アウ
P.20～21		[見る・知る・学ぶ] 絵画の修復		アイウ
P.22～23	デザイン	書物のデザイン	(2)アイ	アイ
P.24～25		安心をつくるデザイン	(2)アイ	アイ
P.26～27		自然との共生	(2)アイ	アイ
P.28～29		[作家の生涯と作品] 田中一光		アイウ
P.30～31		[見る・知る・学ぶ] オリンピックのデザイン		アイウ
P.32～33	映像メディア表現	光を捉える	(3)アイ	アイ
P.34～35		編集で広がる映像の世界	(3)アイ	アイ
P.36～37		[見る・知る・学ぶ] 時代の精神を感じて		アイ
P.38～39	資料	ポートフォリオをつくる	(1)アイ(2)アイ(3)アイ	
P.40～41		[美術を学んで広がる未来] ファインアートに関わる仕事		アウ
P.42～43		[美術を学んで広がる未来] デザインに関わる仕事		アウ
P.44～45		[美術を学んで広がる未来] 映像メディアに関わる仕事		アウ
P.46～47		あとがき		アイウ